

平成 27 年度 大阪府河川整備審議会 第2回治水専門部会 議事要旨

日 時 : 平成 27 年 6 月 30 日 (火) 18:00~21:05
場 所 : 大阪府公館
出席者 : 多々納部会長・綾委員・小笠原委員・田中丸委員 計 4 名
(欠席: 堀委員)

まとめ

近年の降雨を踏まえた取組みについて

<洪水時における情報提供の充実について>

- ・「越水破堤」に対する氾濫危険水位等の設定方法に関して、避難時間に要する時間が確保できる河川に適用する「設定方法①」、及び水位上昇が急激で避難時間の確保が困難な河川に適用する「設定方法②」について概ね了承。引き続き、データ収集や計算精度の向上、河川改修状況等も踏まえ、今後も検証を続けること。
- ・「漏水・侵食」による破堤に対しては、市町村と連携して水防時の監視強化に努めること。

<農業用施設を活用した流出抑制について>

- ・農業用施設を活用した流出抑制については、農林部局と都市整備部局が連携して着実に進めること。

<近年の降雨を踏まえた取組みについて>

- ・本日の審議内容を踏まえ、引き続き審議を行う。

概 要 : [以下、○委員 ●事務局]

近年の降雨を踏まえた取組みについて

<洪水時における情報提供の充実について>

- 府と市町村の水防計画には、今回設定した氾濫危険水位、避難判断水位を踏まえた対策について記載されたい。
- 氾濫注意水位、水防団待機水位については、今回改定しないのか。
- これらの水位については、別途設定に関する考え方があり、これに基づいて設定している。今回は改定作業の対象としていない。
- 氾濫危険水位等の設定は、既往出水のみを用いて設定するのではなく、計画降雨等も用いて検討すべきではないか。
- 各河川において一定の洪水は発生しており、既往出水のデータは、当該河川の水位上昇特性を適切に反映していると考えている。併せて、計画降雨による水位上昇特性についても確認し、概ね同等であることを確認している。
- 氾濫危険水位等は、氾濫注意水位もしくは水防団待機水位より高い水位上昇区間から最大水位上昇量を算定することになっているが、何を意味するのか。
- 可能な限り高い水位状況の下で水位上昇量を捉えることを目的としたものであり、両水位はあくまでも目安である。
- H-Q 式については、どの断面で作成されたものが使用されているか。
- 基準地点及び危険箇所における H-Q 式を使用している。これらは、流量観測業務及び洪水リスク表示図

の作成過程で作成したものであり、一定の妥当性があると考えている。

- 氾濫危険水位等の設定において、精緻な検討を実施している一方で、出水規模によって流下時間が不変である「クラーク式」を用い、単純化している面もあるなど、パーツによって検討の精度に差があるように感じる。
- 氾濫危険水位等の設定の他に改善された点は、同一河川に複数の危険箇所がある場合に、同一の基準地点に対して、それぞれの危険箇所に対応した氾濫危険水位等が設定されたことである。また、危険箇所と基準地点の距離が離れているなど、基準地点において危険箇所の氾濫の予測が困難な場合等には、当該地点における氾濫危険水位等の設定及び量水標への表示、さらにはカメラの設置にも取り組んでいるとのこと。
- 「漏水・侵食」の監視は、計画高水位を超過した場合の安全性を担保する部分であり、これらを発見した場合の市町村の対応については、客観的な基準を定め、具体的に記載すべきではないか。河川管理者の持つ情報を、市町村が発令する避難勧告、指示にスムーズにつなげる必要がある。
- 河川管理者が「漏水・侵食」の要注意箇所などを整理し、市町村と情報共有しつつ、漏水等の早期発見に向けた両者の連絡体制の強化を図っている。また、漏水等が発見された場合には、河川の水位によらず、堤防決壊により影響を受けるエリアに対して、市町村が避難勧告等を発令するよう、市町村の避難マニュアルを改訂中である。
- 「越水破堤」に対する氾濫危険水位等の設定方法に関して、避難時間に要する時間が確保できる河川に適用する「設定方法①」、及び水位上昇が急激で避難時間の確保が困難な河川に適用する「設定方法②」について、概ね了承。引き続き、データ収集や計算精度の向上、河川改修状況等も踏まえ、今後も検証を続けること。
「漏水・侵食」による破堤に対しては、市町村と連携して水防時の監視強化に努めること。

<農業用施設を活用した流出抑制について>

- 今後、時間雨量の増大に伴い、将来ため池への最大流入量が増大すれば、洪水でため池が決壊するリスクは高まる。ため池の耐震診断や現時点における老朽化の程度に加え、河川部局と連携してため池の洪水リスクを評価し、治水計画に反映させてはどうか。また、ため池の管理者に対するインセンティブとして、ため池の洪水リスク評価や改修に関する補助メニューもあればよい。
- 農業用施設を活用した流出抑制については、農林部局と都市整備部局が連携して精力的に取り組んでおり、これを着実に進めること。

<近年の降雨を踏まえた取組みについて>

- ため池の洪水リスクへの対策についても検討してもらいたい。
- ゲリラ豪雨が発生しやすくなったと一般的に報道されているが、過去の降雨のハイトグラフや観測地点数等から検証してみてもどうか。
- 土地利用の誘導等による取組みについて、検討を進めてもらいたい。
- 降水量の空間分布と浸水地域の関係を整理してはどうか。
- 降雨データが蓄積されたら、あるタイミングで降雨強度式を見直し、洪水リスクを再評価すべきである。
- 今後のスケジュールについて、9月頃に答申をいただけるよう検討を進めていく。
- 本日の審議内容を踏まえ、引き続き審議を行う。